

# 国内エネルギー事業



## 2030年度に目指す姿と足元の概況

国内エネルギー事業をガス製造・販売、ガス配給、電力発電・販売の3つの事業分野に整理し、各事業の強化により新時代のエネルギーメーカーとしての展開を図ります。

関西圏のお客さまに都市ガスを安定的かつ安心・安全にお使いいただくことはもちろん、電力・LPG事業の拡大、ライフサポートやユーティリティエージェントとしての一括サービスの拡充を図ることで、エネルギー&サービスを総合的に提供していきます。さらに、関西圏で培ったノウハウ・サービスをアライアンスにより広域に展開していきます。

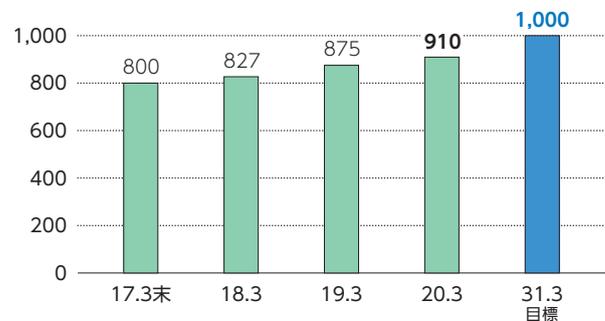
このような「お客さまの期待」「事業の枠」「企業の枠」を超える活動により、2030年度に1,000万件以上のお客さまアカウントを獲得していきます。

2020年3月期の実績

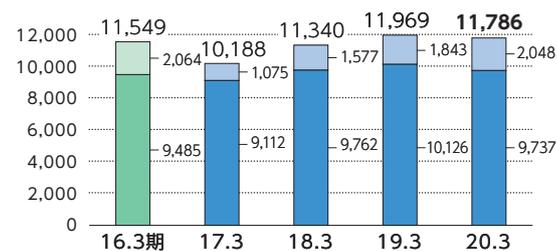
売上高 **11,786** 億円 セグメント利益\* **610** 億円

\* 営業利益+持分法による投資損益

お客さまアカウント数 (万件)

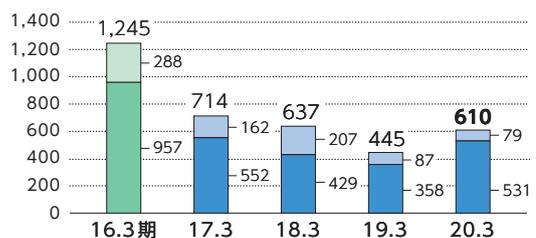


売上高\* (億円)



■ ガス ■ LPG・電力・その他エネルギー ■ 国内エネルギー・ガス ■ 国内エネルギー・電力

セグメント利益\* (億円)



\* 2019年3月期より、大阪ガスエンジニアリング(株)のセグメントをLBSから国内エネルギー・ガスに変更。2018年3月期の実績は、変更後の内容で記載。

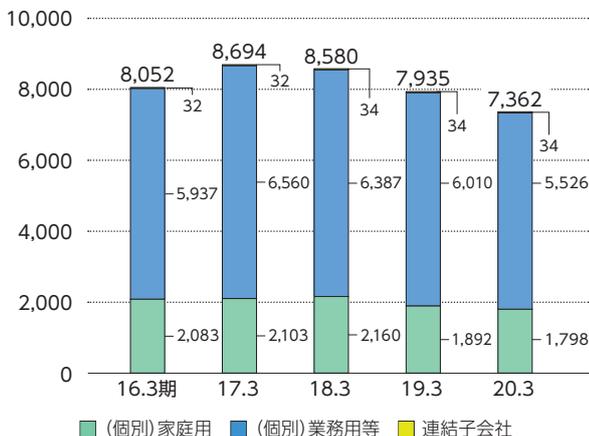
## □ Daigasグループの取り組み

家庭用では、電力の料金メニューや住ミカタ・サービス、IoTサービスのメニュー拡充、IoTに対応したガス機器の発売など、お客さまにさらなる付加価値を提供するための取り組みを推進しています。業務用では、ICT・IoTを活用した新サービスのリリースやお客さまに必要な技術や商品の開発などのエンジニアリングの提供を広域で展開するなど、お客さまの課題解決やエネルギーの最適かつ効率的な活用のための取り組みを推進しています。広域・電源開発の取り組みでは、様々な事業者と連携しながら、首都圏をはじめとする広域でのエネルギー&サービスの展開や、電源開発(再生可能エネルギー電源含む)などの

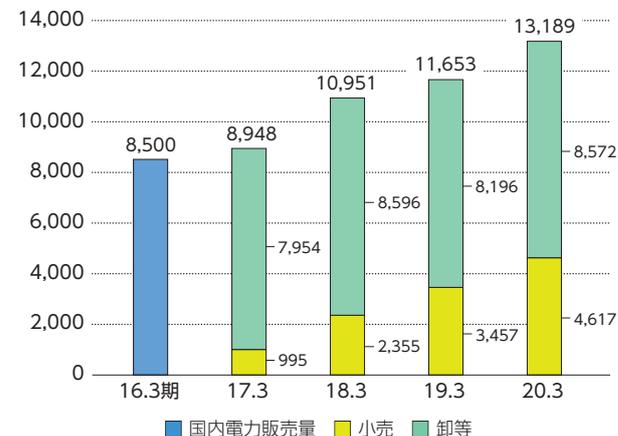
インフラ構築に積極的に取り組んでいます。これらの取り組みの結果、2020年3月末時点での連結ガス供給件数は5,345千件、低圧電気供給件数は1,322千件となり、お客さまアカウント件数は910万件となりました。

	19年3月末	20年3月末	前年差
連結ガス供給件数(千件)	5,579	5,345	-235
個別ガス供給件数(千件)	5,553	5,225	-328
低圧電気供給件数(千件)	945	1,322	+377
お客さまアカウント数(万件)	875	910	+36

連結ガス販売量推移 (百万m<sup>3</sup>)



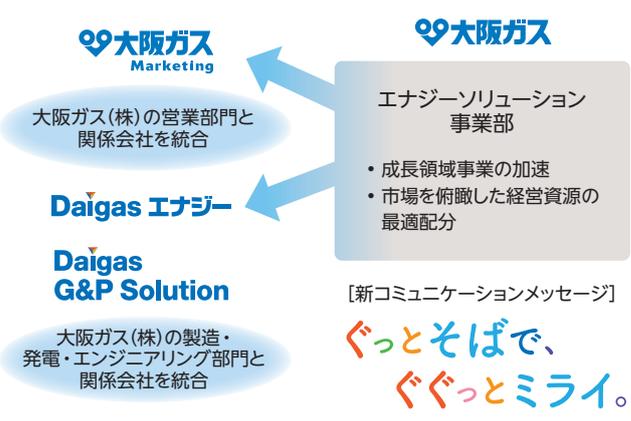
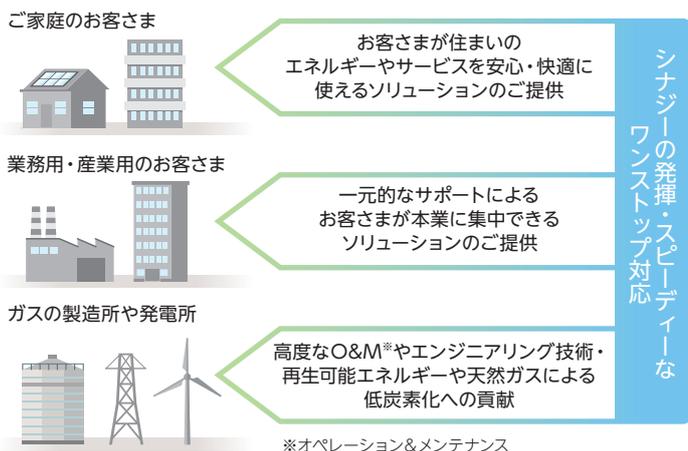
連結(国内)電力販売量推移 (百万kWh)



## □ 組織再編(基盤会社の設立と組織変更)

2019年10月、当社グループは、事業環境の変化に対応し持続的に成長することを目的として、エネルギー分野における中心的役割を担う新たな関係会社を基盤会社として設立し、2020年4月に事業を開始しました。さらに、基盤会社の事業開始に合わせて、大阪ガス(株)と関係会社の強みを基盤会社に

集約するとともに、大阪ガス(株)の営業部門において組織変更を行うことで、お客さま起点での現場機動力の向上、固有の強みを持つ関係会社とのシナジー発揮によるスピーディーなワンストップ対応を提供していきます。



25

Daigasグループの事業

ガスの安定的な供給、安心・安全にお使いいただく取り組み

低廉かつ安定的な原料調達

天然ガスは世界中に埋蔵されているため、エネルギーセキュリティという点から高く評価されています。また、石油や石炭と比較し、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出が少ないなど、比較的クリーンなエネルギーと位置づけられています。当社

グループでは、調達先および価格指標の多様化に取り組むとともに、保有する自社グループLNG船団の効率的な運用や、2019年に設立したトレーディング会社における取り組みなどを通じて、より一層の低廉かつ安定的な原料調達に努めます。

□ 天然ガスの環境性

都市ガスの原料である液化天然ガス(LNG)は、不純物をほとんど含まないクリーンなエネルギーです。天然ガスを液化してLNGを製造する際に硫黄などの不純物を取り除きます。燃焼時に、温室効果ガスの一つといわれるCO<sub>2</sub>(二酸化炭素)、酸性雨や大気汚染の原因とされるNO<sub>x</sub>(窒素酸化物)の発生量も少なく、またSO<sub>x</sub>(硫黄酸化物)が発生しない、環境性に優れたクリーンなエネルギーです。

□ 調達先および価格指標の多様化

1972年にブルネイからLNGの輸入を開始した後、調達先の多様化に努めてきました。2019年12月に米国テキサス州における天然ガス液化事業が開始し、調達先が1カ国増え、9カ国となりました。また、従来、主に原油価格に連動して価格が決定されていた調達に、アメリカの天然ガス価格指標の一つであるヘンリーハブ価格に連動して価格が決定される調達が加わりました。この価格指標の多様化により、原油価格変動時におけるLNG価格の安定化につながることに加え、液化事業に投資することでヘンリーハブ価格に連動するLNGの中でも価格競争力のあるLNGを調達することができます。今後もより一層の低廉かつ安定的なLNG調達に努めます。

□ 天然ガスの埋蔵国とDaigasグループのLNG調達先

世界の天然ガスの確認埋蔵量  
198.8 兆m<sup>3</sup>

- 主な天然ガス埋蔵国\*
- Daigasグループ長期購入契約締結国

数字は天然ガス埋蔵量(単位: 兆m<sup>3</sup>)  
※ 出典: BP [BP Statistical Review of World Energy 2020]

埋蔵国	埋蔵量 (兆m <sup>3</sup> )
ロシア	38.0
中国	8.4
アメリカ	12.9
ベネズエラ	6.3
イラン	32.0
トルクメニスタン	19.5
イラク	3.5
サウジアラビア	6.0
アルジェリア	4.3
ナイジェリア	5.4
エジプト	2.1
クウェート	1.7
カタール	24.7
オマーン	0.7
ブルネイ	0.2
インドネシア	1.4
オーストラリア	2.4
マレーシア	0.9
UAE	5.9
パプアニューギニア	0.2
カナダ	2.0
ノルウェー	1.5

年	LNG輸入開始国
1972年	ブルネイ
1977年	インドネシア
1989年	オーストラリア
1995年	マレーシア
1998年	カタール
2000年	オマーン
2008年	ロシア
2014年	パプアニューギニア
2020年	アメリカ

LNG取扱量 (万吨)

期間	取扱量 (万吨)
11.3期	~800
12.3期	~800
13.3期	~800
14.3期	~800
15.3期	~800
16.3期	~800
17.3期	~900
18.3期	~900
19.3期	~900
20.3期	~900

■ ブルネイ ■ インドネシア ■ マレーシア ■ オーストラリア ■ ロシア  
 ■ カタール ■ オマーン ■ パプアニューギニア ■ アメリカ ■ その他

□ 自社グループLNG船団の活用

8隻の自社グループLNG船団を活用し、さらなる原料調達の安定化や輸送コスト低減を目指すとともに、調達先の多様化と合わせて、トレーディング事業の拡大にもつなげていきます。

船名	LNG JUNO	LNG JAMAL	LNG DREAM	LNG BARKA	LNG JUPITER	LNG VENUS	LNG MARS	LNG SATURN
容量	180千m <sup>3</sup>	135千m <sup>3</sup>	145千m <sup>3</sup>	153千m <sup>3</sup>				

2020年3月末時点

## 安心・安全にお使いいただく供給体制

### □ 供給網の構築

都市ガス供給能力のさらなる強化と安定性向上のため、導管網の定期的な検査と計画的な補強工事、より強じんな材質への定期的な交換を行っています。また、供給安定性向上と都市ガス需要への対応のため新規の導管延伸も手掛けており、強固なネットワークを構築しています。

#### Daigasグループの都市ガスサービスエリア



#### 大阪ガス(株)の高圧幹線の概要

使用開始	路線名	延長(km)
1972年	近畿幹線第1東部ライン(北まわり)	79
1973年	堺連絡管	11
1975年	泉北第1連絡管	5
	泉北第2連絡管	5
1976年	近畿幹線第1東部ライン(南まわり)	30
1978年	近畿幹線第2東部ライン	92
	河内ライン	14
1980年	北海連絡管	12
1986年	播磨西海岸線	7
1989年	近畿幹線第2西部ライン	158
1994年	近畿幹線第3西部ライン	73
1996年	高砂ライン	3
2000年	近畿幹線湾岸ライン	21
	西島連絡管	1
2001年	西島ライン	1
2003年	近畿幹線京滋ライン	46
	近畿幹線姫路ライン	7
2006年	近畿幹線滋賀ライン	46
	BS彦根ライン	1
2009年	堺西ライン	1
2010年	近畿幹線尼崎ライン	7
2014年	三重・滋賀ライン	23
	姫路・岡山ライン	86
2016年	相生ライン	3
2019年	泉北バイパスライン	1

## 安全対策

### □ 供給網の整備と24時間の緊急出動体制

当社の総延長約62,400km(地球を約1周半できる距離)のパイプライン網について、定期的な点検・整備により予防保全に努めています。また、中央指令室では、24時間体制でガスの供給状況を

一元的に監視・制御し、お客さまからの通報があれば各地の基地から迅速に出動できる体制を構築しています。



## 防災対策(地震対策)

### □ 予防対策

大きな揺れを感知すると自動的にガスが止まるマイコンメーター(家庭用)の普及促進や、低圧ガス導管へのポリエチレン管の積極的な採用など、地震による被害を最小限に抑制するための取り組みを進めています。

#### マイコンメーター



阪神淡路大震災時  
75%

2020年3月末  
100%

#### 柔軟性に優れたポリエチレン管



阪神淡路大震災時  
約1,200km

2020年3月末  
約16,700km

### □ 緊急時対策

被害の大きな地域を限定してガスの供給を止めることができる導管網のブロック化を進め、本社中央指令室が被災した際は中央指令サブセンターが代わりに対応するなど、地震発生時のための備えを強化しています。

#### 導管網のブロック化

阪神淡路大震災時  
55ブロック

2020年3月末  
約170ブロック

### □ 復旧対策

被災時に早期にガスの供給を再開できるよう、資機材備蓄やシステム整備を行っています。また、「復旧見える化システム」により、大規模地震発生時にガスの供給を停止した地域のお客さまに対して、わかりやすくガスの復旧情報を提供しています。

#### 復旧見える化システム

ガスの復旧状況を市町村単位で見える化(地図とリストの両方で確認)



## お客さまアカウントの最大化に向けた取り組み

「お客さまの期待」を超えるサービスの提供を継続することで、都市ガス・LPG・電力などの様々なエネルギーやその周辺サービスにおいてお客さまから選ばれ続けることを目指します。

## 家庭用の取り組み

当社グループは、110年以上に亘り、都市ガスの安定供給と高品質な安心安全を提供することで、お客さまからの信頼を獲得してきました。この信頼を背景に、お客さま一人ひとりのご要望に応じたエネルギー、機器、暮らしのサービスやリフォームなどをスピーディーに提供することで、お客さまとのつながりを強化していきます。

### □ お客さまとの接点

当社の供給エリア内に、サービスチェーンは約200店舗存在し、当社の委託業務(ガスの開閉栓・ガス機器のメンテナンスなど)に加えて「住ミカタ・サービス」を提供するなど、地域に密着した活動を行っています。

ガス機器のトラブルについては、大阪ガス(株)お客さまセンターで、24時間365日予約受付を行っており、当社独自のガス機器修理資格を有する約1,200名のサービスマンが午後3時までの受付分について当日訪問を行っています。ガス機器の受付から修理完了までのスピードに対する満足度は約98%とお客さまから高い評価を得ています。



365日対応の受付体制  
(大阪ガス(株)お客さまセンター)



即日訪問体制  
(午後3時までの受付分)



高いお客さま満足度

### □ 多彩な電気料金メニュー

当社では、ガスをご契約のお客さま向けの「ベースプランA-G」、家庭用燃料電池コージェネレーションシステムエネファームをお使いいただいているお客さま向けの「家庭用ガス発電プラン」をはじめ、お得な料金メニューを提供しています。2019年3月期には、お客さまのライフスタイルや個々のニーズに合わせてご利用いただける電気料金メニュー「スタイルプラン」を設定し、2020年3月期には、お客さまの趣味や嗜好にあわせて、他の企業・団体と一緒に楽しく豊かな暮らしを応援する電気料金メニュー「ウィズプラン」を新たに設定しました。これらの便利でおトクに加えて、お客さまのライフスタイルやニーズに合わせた料金メニューを提供することで、お客さまの暮らしをサポートしていきます。

スタイルプラン	 スタイルプラン S	「住ミカタ・保証パック」がついておトクにご利用いただけるメニュー
	 スタイルプラン P	Amazon の会員プログラム「Amazon プライム」がついておトクにご利用いただけるメニュー
	 スタイルプラン d	月々の電気料金に応じてドコモのポイントサービス「dポイント」がたまるメニュー
	 スタイルプラン E	環境にやさしい電気を利用したいお客さま向けのメニュー
ウィズプラン	ウィズradikoプラン	契約期間中ずっと大阪ガス(株)が「radiko プレミアム」の年会費を負担するメニュー
	ウィズよしもとプラン	契約期間中ずっと大阪ガス(株)が「大阪チャンネル」の年会費を負担するメニュー
	ウィズABEMAプラン	契約期間中ずっと大阪ガス(株)が「ABEMA プレミアム」の年会費を負担するメニュー

### □ リノベーション事業への出資

当社は2020年5月に、首都圏を中心に中古マンションのリノベーション事業を手掛けるグローバルベイス(株)の株式を取得しました。同社は、立地にこだわった物件調達力、幅広い顧客ニーズに対応するデザイン・施工力を強みとしています。近年は他業種とのコラボレーションによる付加サービスの提供や空間デザインの差別化にも注力し、より快適な居住空間の提供を推進しています。

当社は、関西圏においてガス・電気といったエネルギー供給だけでなく、ガス機器やリフォームなど、お客さまの様々なニーズにお応えし、2020年3月末には累計35万件を超えるリフォームの受注をいただいています。

今後は、当社の持つIoTを活用した最新のガス機器と、グローバルベイス(株)の持つリノベーションデザインなどでシナジーを発揮し、さらなるお客さま価値の向上に努めます。



### □ 家庭用燃料電池エネファーム普及への取り組み

当社では、2009年に「エネファーム」の販売を開始して以降、累計販売台数が2019年10月に11万台を超えました。2020年4月に発売した「エネファームtype S」の新製品は、世界最高の発電効率55%<sup>\*1</sup>を達成するとともに、本体の大幅な小型化により設置性が向上しました。停電中も発電し、電気が使える停電時発電継続機能がついた製品もラインアップしています。また、スマートフォンの専用アプリと連動させてお使いいただける便利な「ツナガルスイッチ<sup>\*2</sup>」をリモコンに追加し、IoTサービスも拡充しています。

さらなる技術開発とコストダウンに努め、今後もお客さまの快適な暮らしの実現と環境負荷の低減、エネルギーセキュリティの向上などに貢献していきます。



エネファームtype S ツナガルスイッチ

※1 一定条件のもと、世界最高の発電効率  
(2020年1月末時点の大阪ガス(株)調べ)

※2 アプリから選んだ機能をリモコンに割り当て、簡単に利用できるスイッチ

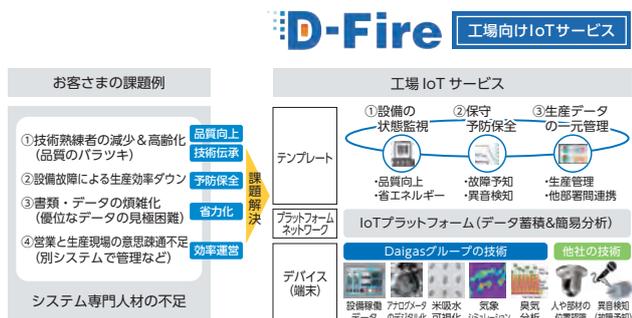
## 業務用・工業用の取り組み

当社グループは、エネルギーの最適かつ効率的な活用のために、お客さまのユーティリティに関するアウトソーシングニーズを解決するとともに、お客さまに必要な技術や商品の開発などのエンジニアリング、IoTを活用したサービスなどをワンストップで提供しています。

### □ 工場向けIoTサービス

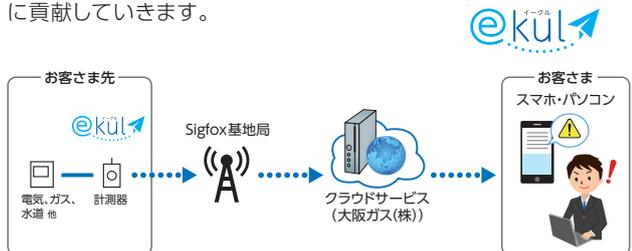
当社グループは、2019年7月から工場の生産性向上につながるIoTを活用したソリューションをワンストップで提供する新サービス「D-Fire」を開始しました。お客さまの工場に最適なデバイスやセンサーの選定とその可視化・分析ツールの提供に加え、当社グループがこれまで培ってきた技術・ノウハウを活用し、お客さま先でのコンサルティング営業をさらに進化させることで、工場全体の課題解決をサポートします。

これにより、設備稼働データの傾向管理による突発的な設備故障の軽減に加え、加工条件と製品品質情報との照合により、安定的な品質管理を実現します。熟練技術者のノウハウをデジタル化することも可能になり、技能伝承の支援にもつながります。当社グループは今後も独自の技術に、AIやIoTなどの最新技術を組み合わせることで、お客さまのビジネス拡大や課題解決に役立つサービスの拡充を目指します。



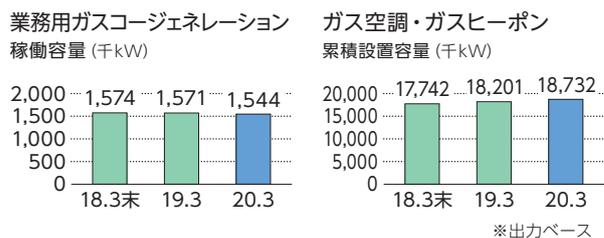
### □ ICTを活用したサービス提供

当社グループは、業務用・工業用のお客さま向けに、情報通信技術 (ICT) を活用したサービスを展開しています。「ekul」は、ガス・電気の使用量を即時に計測して情報をお知らせする他、水道使用量や来店者数・温湿度など、様々なデータの追加計測が可能となるサービスです。また、2019年4月から「ekul」の新たなプランとして「ekul lite」を開始しました。シンプルな機器構成、電池駆動で設置場所を選ばない計測器の導入、従来の「ekul」サービスの機能も利用可能など、多様なサービスでお客さまのビジネスの発展に貢献していきます。



### □ ガスコージェネレーションシステム・空調システムの普及拡大

電力ピークカットや省エネルギーの促進に寄与するコージェネレーションシステムやガス空調システムの提案を進めています。



### □ ユーティリティエージェント※契約

Daigasグループのユーティリティエージェント契約は、Daigas エナジー(株)が9つのテーマを組み合わせ、ユーティリティに関するあらゆるサービスを提供しています。最適なユーティリティ設備 (ガス・電気・水など) の提案、イニシャルレスの設備導入、エネルギーの最適調達、設備のオペレーション&メンテナンス、設備導入後の省エネ運用アドバイスを一括で行うことで、設備導入時のみならず、運転期間中も継続的に省エネルギー、省コストを実現します。

※ 商標「ユーティリティエージェント」は大阪ガス(株)及びDaigas エナジー(株)の登録商標です。



### □ エンジニアリングの提供

これまで培ってきた技術で、お客さまの施設全体のエネルギー負荷を徹底的に調査するとともに、国内最大級のテスト場でのシミュレーションなどにより、お客さまの様々な課題を解決します。さらに、施工、施工後のアフターメンテナンスもDaigasグループで実施します。定期点検、突発的なトラブルへの対応、設備改善など、トータルソリューション提案を行います。

診断実績 2020年3月末時点

工業用設備など  
約6,700台

電力測定  
約2,100系統

## 広域でのエネルギー&サービス展開、競争力があり環境に優しいインフラ構築

エネルギー事業者として競争力があり、環境に優しいエネルギーインフラの構築を進めるとともに、エネルギー&サービスを広域で提供することで、社会全体の低炭素化に貢献していきます。

### □ 広域事業の展開

関西圏のエネルギー事業における競争が継続する中で、国内エネルギー事業の成長を目指すために、首都圏を中心に全国に事業エリアを拡大していきます。関西圏の事業で培った知見、ノウハウを活用するとともに、他社とのアライアンスにより、「地域の枠」、「企業の枠」を超えた事業展開を図ります。

### □ 首都圏における取り組み

(株)CDエナジーダイレクトを中心としたガス・電気の販売に関する業務提携の実施や、料金メニューの拡充、マスプロモーションの実施などにより、2020年4月時点で、20万件を超えるお客さまを獲得することができました。

2020年4月には扇島都市ガス供給(株)の都市ガス製造・供給設備および福島天然ガス発電所が商業運転を開始し、首都圏において、競争力のあるエネルギーインフラを構築することができました。これにより、首都圏におけるエネルギー事業のさらなる成長を目指します。

### 主な業務提携先

事業開始*	主な業務提携先	提携内容
2018年10月	(株)東急パワーサプライ	ガス販売
2018年 9月	アルヒマーケティング(株)	電力・ガス販売
2018年10月	(株)エネアーク関東	ガス販売
2019年 1月	読売新聞社	電力販売
2019年 9月	(株)Loop	ガス販売
2019年10月	生活協同組合コープみらい	ガス販売

\* 供給開始月を記載しています。

### 広域でのエネルギー&サービス展開の状況

(2020年6月末時点)

(株)ひむかエルエヌジー (LNG) 出資比率：34% 運転開始：2021年度(予定)	(株)プログレッシブエナジー (ガス供給・エネルギーサービス) 出資比率：25% 出資時期：2019年3月
長岡炭酸(株) (産業ガス) 出資比率：100% 運転開始：2021年4月(予定)	(株)CDエナジーダイレクト (ガス・電気・サービス) 出資比率：50% 事業開始：2018年8月
扇島都市ガス供給(株) (ガス製造・供給) 出資比率：15% 運転開始：2020年4月	びわ湖ブルーエナジー(株) (ガス小売・ガス/水道の保安・サービス) 出資比率：74.8% 事業開始：2019年4月
(株)リライアンスエナジー沖縄 (エネルギーサービス) 出資比率：15% 出資時期：2018年3月	(株)エネアークグループ (LPG・電気・サービス) 出資比率：50% 事業開始：2017年10月

## 再生可能エネルギー電源普及に向けた取り組み

世界的に広がるRE100の流れの中、国内でも再生可能エネルギー(以下、「再エネ」)への関心は高まりつつあることから、当社グループは、それぞれのお客さまのニーズに合った提案ができるよう、風力・太陽光・バイオマスなど、多様な再エネの開発・調達に取り組んでいます。

これまでは再エネ固定価格買取制度(以下、「FIT制度」)を活用した電源開発が中心でしたが、2019年11月にFIT制度の買取期間(10年間)が終了したお客さまを対象として、太陽光発電の余剰電力買取サービス<sup>\*</sup>による電力調達を開始しました。このように、開発・調達した電気をお客さまのニーズに合わせて販売するなど、バリューチェーン全体で、持続可能な再生可能エネルギー事業を目指して取り組んでいます。

また新たな取り組みとして、2020年3月に(株)ウエストホー

ルディングスと再エネ分野で、新たな付加価値を創造する新規事業の共同検討に関する基本覚書を締結しました。

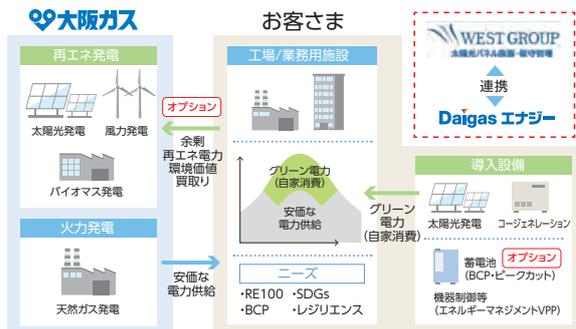
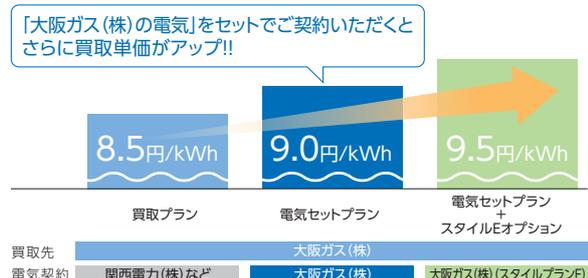
共同検討する新規事業は、今後の環境意識の高まりを踏まえ、再エネ分野における「自家消費型太陽光発電(ソーラーPPA)」や「大型太陽光発電」の共同開発、「再エネ電気取引」などを想定しています。

<sup>\*</sup> 太陽光発電の余剰電力買取サービス

どなたでも契約が可能な電気の「買取プラン」に加えて、「大阪ガス(株)の電気」をお使いいただくことで、よりお得になる「電気セットプラン」、環境にやさしい電気料金メニュー「スタイルプランE」と組み合わせると、買取単価がさらに高くなる「スタイルプランEオプション」を提供しています。「スタイルプランE」は、環境にやさしい電気の利用を希望されるお客さま向けの電気料金メニューで、再エネやエネファームにより発電された電気をご利用いただけます。

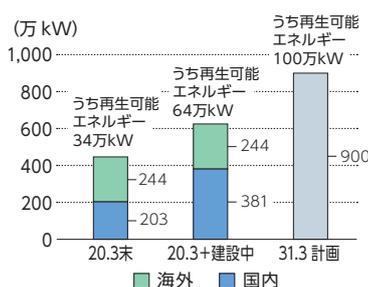
### ソーラーPPAイメージ

電気の買取単価(消費税など相当額を含む。)



## □ 電源開発の取り組み

当社グループは、環境負荷が小さい天然ガス火力発電所を中心に、コージェネレーション、再生可能エネルギー電源といった多様な電源を保有し、国内の発電持分容量は、2020年3月末時点で、約203万kWとなっています。グループ全体の電源ポートフォリオとして、2030年度に国内外で900万kWとすることを計画し、国内では、電力市場や他社電源からの調達も組み合わせることで、需給の変化などに柔軟に対応できるようにしていきます。また、再生可能エネルギー電源を国内外で100万kW規模に拡大すること



で、社会全体の低炭素化にも貢献します。2030年度に向け、競争力があり環境に優しい電源ポートフォリオの構築を目指します。

## □ 日揮みらいソーラー (株) の全株式取得 (2019年12月)

当社グループが2014年5月より発行済株式のうち49%を保有していた太陽光発電事業者日揮みらいソーラー (株) について、2019年12月に日揮ホールディングス (株) が保有する発行済み株式51%を当社グループが取得し、Daigas大分みらいソーラー (株) に商号を変更しました。今後は当社グループの100%子会社として、これまで同様に効率的・安定的な運営に取り組めます。

## □ 兵庫県姫路市における発電事業に関する投資意思決定 (2019年9月)

当社は、2016年4月に出光興産 (株) と姫路天然ガス発電 (株) を設立し、発電事業の検討と準備を進めてきました。2019年9月に当社は発電事業計画 (約180万kW) のうち約120万kW分の事業化について投資意思決定しました。あわせて、姫路天然ガス発電 (株) を当社100%出資とすることで出光興産 (株) と合意しました。

本発電事業は、出光興産 (株) 所有地に高効率なガスタービンコンバインドサイクル方式の発電設備 (約60万kW) 2基を設置し、大阪ガス (株) の姫路製造所から燃料となる天然ガスを供給するもので、2026年1月の運転開始に向けて計画を進めていきます。

## □ 福島天然ガス発電所1号機の営業運転開始 (2020年4月)

当社が20%出資する福島ガス発電 (株) (以下、「FGP」) が建設を進めていた福島天然ガス発電所1号機が、2020年4月に営業運転を開始しました。本発電所は福島県相馬港4号埠頭に建設された発電出力118万kWの天然ガス火力発電所で、発電効率の高いガスタービンコンバインドサイクル方式を採用しています。発電された電力は、出資各社がそれぞれFGPに引き渡した燃料に応じて引き取ります。



1号機外観 (現地写真: 2020年4月現在)



発電所全景

## 総発電容量 国内合計: 約202.5万kW<sup>※1</sup> (2020年3月末現在)

### 火力電源など<sup>※2</sup>

- ・泉北製造所第1工場 1.8万kW
- ・姫路製造所 5.8万kW
- ・泉北天然ガス発電所 110.9万kW
- ・西島エネルギーセンター 14.1万kW
- ・宇治エネルギーセンター 6.7万kW
- ・摂津エネルギーセンター 1.8万kW
- ・千里エネルギーセンター 0.7万kW
- ・船町発電所 14.9万kW
- ・名古屋発電所 (バイオマス混焼分除く) 14.2万kW
- ・名古屋第2発電所 (バイオマス混焼分除く) 7.7万kW
- ・福島天然ガス発電所 118.0万kW  
2020年4月運転開始
- ・姫路天然ガス発電所 124.5万kW (設計中)  
1号機: 2026年1月運転開始 (予定)  
2号機: 2026年5月運転開始 (予定)

火力電源など合計: 約178.5万kW<sup>※1</sup>

### 再生可能エネルギー電源<sup>※2</sup>

- 【太陽光発電】
- ・Daigas大分みらいソーラー発電所 2.7万kW
- ・エナジーバンクジャパン (株) 各発電所 (26カ所) 4.4万kW
- ・その他太陽光発電など 1.8万kW

計: 約8.9万kW<sup>※1</sup>

- 【バイオマス発電】
- ・松阪木質バイオマス発電所 0.2万kW
- ・名古屋発電所 (バイオマス混焼5%) 0.7万kW
- ・名古屋第2発電所 (バイオマス混焼30%) 3.3万kW
- ・市原バイオマス発電所 5.0万kW (建設中)
- ・袖ヶ浦バイオマス発電所 7.5万kW (建設中)
- ・広畑バイオマス発電所 7.5万kW (建設中)
- ・徳島津田バイオマス発電所 7.5万kW (建設中)

計: 約4.0万kW<sup>※1</sup>

- 【風力発電】
- ・葉山風力発電所 2.0万kW
- ・広川明神山風力発電所 1.6万kW
- ・由良風力発電所 1.0万kW
- ・肥前風力発電所 1.2万kW
- ・肥前南風力発電所 1.8万kW
- ・平生風力発電所 0.9万kW
- ・印南風力発電所 2.6万kW
- ・尻別風力発電所 2.7万kW (建設中)

計: 約11.1万kW<sup>※</sup>



印南風力発電所

再生可能エネルギー電源合計: 約24.0万kW<sup>※1</sup>

※1 当社グループ持分容量。営業運転中の持分容量のみ掲載

※2 各案件に記載の容量は発電設備容量を掲載